

今月の論語

思おもうて学まなばざれば
則すなわち殆あやうし

「もうこれでよい」と思って
勉強を止めてはいけない。独断
することは危ない。

今月の帰宅放送は、東原岸倉中央校9年の野口彩香さんです

野の仏ギャラリー②⑥
施楽観音坐像

北多久町湧泉寺



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○施楽観音は三十三観音の一つで、江戸時代の仏画集『仏像図彙』に記された観音です。施楽観音とも呼ばれます。
○白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。

光背こうはいと坐像が一体化しています。頭部に円と蓮弁の文様を持つ宝冠ほうくわんを載せ、頭髪を丸く結い上げています。額に白毫びやくぼうがあります。右手を頬ほほにあて、左手は膝の上に置き、膝の施文せもんから跪坐きざなどの坐り方が考えられます。『仏像図彙』には、岩上に坐り蓮華を見る姿で「如日虚空住」と記載されています。須弥山しゆみせんから落とされる姿で、観音の力を念じれば、太陽が宇宙にあるように、空に留まることができるという説いています。

連載

教育長コラム

ちよっといひ話



「ないものねだり」

ある年、着任した学校は分校があった。港から船で20分かかる島にある分校。一人の児童に、一人の教師。体育など一人ではできない学習は、定期的に本校に船で来させた。

校長として分校を訪問する際は、朝と夕だけの定期船に頼るので、終日分校に滞在した。しかし、天候の影響もあり予定が立てにくく、船で運搬する給食の事前申し込みが叶わず、こちらでコンビニのレジ横に並ぶ揚げ物などを買い求めて朝の便に乗った。

給食の時、並んで食べていると視線を感じる。島にも本校周辺にもないコンビニの揚げ物が珍しく羨ましい様子。「じゃ、給食を食べてまだ入るなら」と揚げ物をお裾分け。ところが、朝食は「父が捕ってきたアワビのステーキ」と当然のごとく教えてくれる。「そんな朝ごはん、一生経験しないよ私たち」と羨ましがら教師。

当たり前の基準って、人によって様々なのだとつくづく知りました。だから、ないものねだりしてしまいます。

教育長 田原優子

市民文芸

◆水張りし田んぼに写る八幡岳
車を停めてしばし見とれる
梶原恵美子

◆幸せを捜す日々から幸せを
生きる日々へと進化した僕
野崎隆幸

◆明日から麦刈り始むと古稀すぎし
弟言えり病は言わず
浦野嘉恵

◆部屋いっぱい庭のつつじのほの明り
一人しあれど満ち足りており
川浪信子

◆ゴッホ巡礼の旅終えし日ははるかなり
われの目ざした一つ目の幕
尾形節子

◆新茶汲む白磁に終ひの雫切る
おおやはな
武富律子

◆紫陽花に薄日射し来る午前中
若葉風
中嶋清子

◆何処までも歩きたくなる
富樫明美

◆妹は都会に暮し麦の秋
富樫明美

◆涼しさに駒打つ音の響き合ふ
本村則子

◆物差しの伸び縮みする生き上手
三塩不二子

◆用意ドンピストル聞こえ
後戻り
東島すみこ

◆物忘れ行きつ戻りつ同じ場所
中尾和弘

◆達成の楽しさ待たせ大仕事
西山残月

◆二所帯住宅一つは欲しい
井上東子

俳句《互選》

短歌《麦の芽短歌会 互選》

川柳《多久川柳会 選者吟》